

びわ湖の大問題

滋賀大学教育学部附属小学校 3年 近藤 聡

ぼくは夏休みの自由研究で、びわ湖の外来魚について調べました。研究のきっかけは、びわ湖で釣りをすると、「なぜブルーギルばかり釣れるんだろう?」「湖岸にはなぜ外来魚回収ボックスがあるんだろう?」と不思議に思ったからです。

去年の3月に、びわ湖の外来魚について研究しようと決めたくれど、ぼくは外来魚について何も知りませんでした。そこで5月27日に琵琶湖を戻す会の「琵琶湖外来魚駆除の日」に家族で参加しました。このイベントで、ぼくはびわ湖の外来魚について、自分の目で見て、体験して、学ぶことができました。外来魚釣り大会ではたくさんの外来魚が釣れました。この日はブラックバス10.9 kg、ブルーギル127.9 kgが釣れたとホームページに書いてあり



りました。地引あみもしました。やっぱり、ブラックバスとブルーギルばかりでした。外来魚かいぼう教室にも参加しました。県の水産試験場の先生がかいぼうの仕方を教えてくださいました。魚のかいぼうは初めてだったけど、一人で大きなオオクチバスを1匹かいぼうできておもしろかったです。胃の中から小あゆやえび、外来魚もでてきました。びわ湖の外来魚は魚をたくさん食べるので、もともとびわ湖にいる魚も食いあらし、生たい系をこわすことを習いました。

このイベントでエリ漁のチラシをもらい、7月22日に家族で参加しました。びわ湖のあちこちに立っている棒の集まりがエリだと初めて知りました。この時もあみにかかったのは、ワタカなど数匹の在来魚をのぞいて、外来魚がほとんどでした。この後、地引あみもしましたが、ブラックバスとブルーギルばかりでした。漁のあと、漁師の戸田さんに「バスとギルでは魚を食べる量がちがうんですか?」と質問しました。戸田さんは、「口の前にきたものは何でも食べる。バスは体も口も大きいから、ギルとは食べる量もぜんぜんちがう」と教えてくださいました。



エリ漁でたくさん魚をもらって帰って、家でかいぼうしたり料理したりしました。小さいオオクチバス5匹とブルーギル15匹をかいぼうしました。胃の中から、小あゆやスジエビ、ブルーギルの場合は水草も出てきました。外来魚は外来魚も食べていました。バスはギルを、ギルはバスを食べていたし、共食いもしていました。エリ漁の魚なので、ふつうに泳いでいる魚がどれだけの量を食べているかなどはわかりませんが、何を食べるのかについて少しはわかったと思います。

かいぼうの後、料理もしました。これまで、琵琶湖博物館やイベントで外来魚を食べていて、おいしいと知っていたからです。「琵琶湖外来魚駆除の日」で食べたバスボールがおいしかったので、琵琶湖を戻す会の高田さんに作り方を聞いて、家で作りました。そのほかに、魚の味が比かくできるようにから揚げにして、オオクチバス、ブルーギル、ワタカを食べました。バスはふんわりした自身、ギルはバスよりちょっとかため、ワタカはしっとりしていて骨が多かったです。新鮮なので、どれも本当においしかったです。

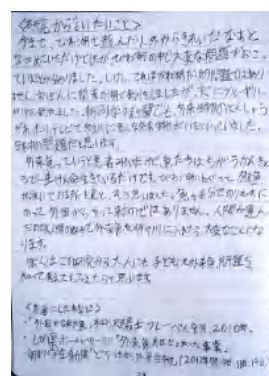
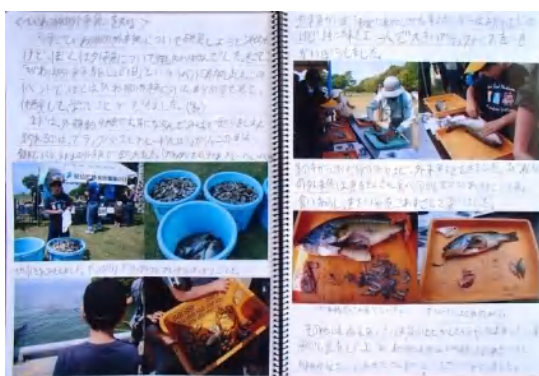
いろいろと体験した後で、琵琶湖博物館の中井克樹先生に質問しに行きました。ぼくが一番大きな疑問は「びわ湖の外来魚はなぜこんなにふえたのか？」ということでした。中井先生はこの質問に1時間くらいかけてお話ししてくださいました。ぼくは、ブラックバスの産む卵の数が多いから、ふえるのだと思っていました。しかし、野生の生き物はほとんど、安定している時は親2匹から最後は子2匹が残るようにできていて、たくさん卵を産むのはたくさん死んでしまうからだと教えてくださいました。でも、大人になれなかった命も決してむだではないんだよ、他の生き物のエサになったりして、そうやって自然は回っているんだよと聞いて、なるほどと思いました。そして、びわ湖の在来魚は長い間かかって生き残った生き物であり、バランスしていたことを教わりました。ここで、中井先生は「外来魚はなぜ問題なのでしょう？びわ湖に金魚をすてる人はたくさんいると思うけど、なぜばく発的にふえないのでしょうか？」とぼくに問題を出されました。ぼくは全くわかりませんでした。先生は、外来魚が全くちがう環境に入れられると、天敵がない、病気がない、活動をおさえる力がはたらかないなど、想定外のことがおきることを教えてくださいました。東アジアの魚は東アジアではあまり問題はおこさないが、ブラックバスやブルーギルはもともとアメリカの魚なので、想定外のことがおこりやすいことも習いました。

ぼくは外来魚が泳いでいるところを実際に見たくて、中井先生に相談してみました。そして、観察の方法や水中写真のとり方、海津大崎の近くの観察にいい場所を教えてくださいました。8月18日に家族でその場所へ行って、外来魚の観察をしました。すぐに小さなブルーギルを見つけました。その後、小さいオオクチバスやビワヒガイのむれ、ヌマチチブなどにも出会いました。でも、いちばんよく見たのはブルーギルでした。魚たちはいきいきと泳いでいて、びわ湖でくらしているんだなあと思いました。外来魚も在来魚も、魚たちは一生けん命生きているだけなんだなあと思いました。



約半年にわたるびわ湖の外来魚の研究から、ぼくが言いたいことをまとめます。今までびわ湖で遊んだり、外からきれいだなあとながめていただけでしたが、びわ湖の中で大変な問題がおこっていることがわかりました。外来魚っていうと悪者みたいだけど、魚たちはちがう環境で一生けん命生きているだけです。びわ湖にもぐって、外来魚が泳いでいるところを見て、そう思いました。魚が自分でのりものに乗って外国からやって来たものではありません。人間が運んだのです。人間の都合で外来魚を湖や川に入れたら、大変なことになります。ぼくはこの研究から、大人にも子どもにも外来魚問題を知って考えてもらえたらと思っています。

(第31回 海とさかな自由研究・作品コンクール 自由研究部門 農林水産大臣賞 受賞)



研究をまとめた冊子 (全24ページの一部)